

# 梅雨の季節に備えて

## 災害から身を守る

大雨や台風などによる災害は、防災情報の入手など早めの対策により被害を軽減することが可能です。万が一災害が発生した場合、一刻も予断を許さない状況では、自分たちで自らの身の安全を守り、地域の人たちと協力して対応しなければなりません。

そのために、今できることを準備し、いざというときにやるべきことをイメージしておくことが大切です。



図 総務課 ☎(21)0209

### 避難情報の種類

#### ○避難準備・高齢者等避難開始

避難勧告や避難指示(緊急)を発令することが予想される場合です。避難に時間を要する人(高齢の人、障害のある人、乳幼児など)とその支援者は避難を開始しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。

#### ○避難勧告

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合です。速やかに避難場所へ避難をしましょう。外出することによって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。



#### ○避難指示(緊急)

災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合です。まだ避難していない人は、緊急に避難場所へ避難をしましょう。外出することによって命に危険が及ぶような状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。



#### ※周囲の状況に注意して

避難勧告、避難指示(緊急)などの避難に関する情報は、市から発表されます。発表される災害情報だけではなく、周辺の状況にも注意して、自主的な早めの避難を心がけましょう。

### 土砂災害から身を守るために

長雨や大雨、または地震が発生したとき等に、次のような現象を確認したら、早めに避難しましょう。

| がけ崩れ  | 土石流  | 地すべり   |
|---|--|--|
| <p>地中にしみ込んだ雨水により、急な斜面が突然滑り落ちる現象です。地震によって起こることもあります。</p>  | <p>谷や山の斜面から崩れた土や石などが、大雨や長雨による水と一緒に流れてくる現象です。</p>  | <p>粘土のようなすべりやすい地層に雨水などがしみ込み、その影響で地下水水位が上昇し、地面が滑り出す現象です。</p>  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○がけからの水がにごる</li> <li>○小石が落ちてくる</li> <li>○がけから音がする</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○山鳴りがする</li> <li>○雨が降り続けているのに、川の水位が下がる</li> <li>○川の水がにごったり、流木が交ざる</li> </ul>                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地面にひび割れができる</li> <li>○がけや斜面から水がふき出す</li> <li>○家やよう壁に亀裂が入る</li> </ul>                                     |

### 日ごろの備え 確認・点検

日ごろの備えは、危険性の分析や避難など、いざというときの判断や行動に生きてくる重要な防災対策です。

住んでいる地域の土砂災害の危険性、避難場所や避難経路について防災マップなどで把握しておくことが重要です。

### 防災情報 最新の情報を

自分で適切な判断ができるように、防災情報をケーブルテレビや市メール配信サービス、市ホームページ、巡回広報から収集しましょう。

市メール配信サービス  
(防災情報)



QRコード

### 「自助・共助・公助」

最も基本となるのは「自助」です。自分が助からないと助けを求めている人も助けられません。一人ひとりが災害をイメージし、日ごろの備えをすることが重要です。

また、災害時には自治体や消防などの「公助」が行われますが、大規模災害などの場合、すべての地域へは届かないかもしれせん。そんな時、最も頼りになるのは「共助」です。

### 自主防災組織を結成しましょう

災害時に力を発揮するのが「地域ぐるみの協力体制」です。自主防災組織とは、地域の人々が自発的に防災活動を行う組織です。「自分たちの地域は自分たちで守る」という心構えが求められています。自主防災組織を結成し、災害に強い地域づくりを目指しましょう。(市では、自主防災組織の活動促進事業として、活動費などに対する補助を行っています)